

2011/3/11 東日本大震災・原発事故、9/3 台風12号、9/20 台風15号と大災害に襲われました。

・・・ 防災特集2 ・・・

みらい会員が参加した、講座・講演会等の内容をまとめました。こうした学習成果を踏まえ、豊川市に提言する予定です。

講演 脱原発のメッセージ～震源域ど真ん中の浜岡は日本一危ない原発～

講師 三上元 湖西市長

2011/9/10 豊橋市市民文化会館 参加2名



動画配信 <http://www.youtube.com/watch?v=d4zNaiA9nT4&feature=related>

今回の災害を見て、私は市長として“脱原発”の運動をする決心をしました。私は元々原子力発電に反対で、国会議員の方々の何人かとも激論を戦わせてきましたが、彼等は「万全の対策がとられており、大丈夫だ。」と言っておりました。だが、そうではありませんでした。私の反対理由は次のとおりです。「ブログ はまぞう 三上元」

脱原発の理由

- 人間にはミスがあります。想定ミスも、操作ミスも。
ミスゼロのことを、神業といいます。私たちは神様ではありません。福島原発は想定甘さという大きなミスを犯してしまいました。
- テロや飛行機墜落の想定はされていません。
10年前の9・11を思い出してください。大型飛行機や軍用機がぶつかった時の想定や対策は講じられていません。
- 戦争の標的は国防上無くさねばなりません。
今や戦争はミサイル時代であり、その標的にされる原発は国防上無くす必要があります。
- 日本は地震大国、津波大国。
日本は地震大国、津波大国であり、神戸のような直下型地震と今回のような津波対策をすべきなのに、全く対策が実行されていません。
- 原発は決して安価ではありません。
原発は安価であるという政府の考え方は、今回の事故ではっきり否定されました。上記4点の対策を万全にし、1炉800億円とか5000億円と言われる廃炉コストを加え、使用済み燃料の最終処分と長期保管コスト、さらに事故発生時の補償コストを算入すれば、風力や太陽光よりも高価なものと計算されるはずですが。
- 使用済み核燃料の処分先はまだ決まっていません。
「トイレのないマンション」”自分の便を袋に入れて部屋の隅にいつまでも置くことができますか！”
使用済み核燃料の最終処分場はどの市町村からもきらわれて、500年以上(10万年)の長期保管場所も決められず、どの原発も自分の敷地内に危険物を溜め込んで困っている状態です。(フィンランドに1ヶ所?)
- 原発こそ地球環境破壊の元凶なのです。
原発で生まれた熱エネルギーは1/3しか電気に変換できません。捨てられる2/3は、海温を上昇させる地球温暖化の主要因になっているのです。

どうすればよいのか!?

- 新しい原子力発電所はもう作らない。建設中の物も中止する。
- 当面は液化天然ガスを増やし、長期的にはクリーンエネルギーへ。
- トリウム熔融塩原子炉や地熱発電、そして蓄電技術への研究開発費を増やす。
- 太陽光発電への補助金を増やし、42円/kwhで10年間、全量買い取る制度に改める。
- 夏2ヶ月は、工場がスケジュール化して交代で大型連休を取り、節電に努める。
- 夏2ヶ月間、昼間だけは電力料金の値上げを認める。

私たちにできること!

政治家に原発に対する態度を問いただそう!



講演 福島原発事故の真相と放射能汚染の恐怖」 2011/10/2 豊川高校 参加2名

講師 広瀬隆 (作家 ジャーナリスト)

動画配信 前編 <http://www.youtube.com/watch?v=hrCeW1BnR6s>

後編 <http://www.youtube.com/watch?v=VS3ZUj8GkeM>

3月15日午前7時ごろ、福島第一原発4号機で爆発音がした後、黒煙は関東一円に拡散した。

3月21日には豊川市に到達していた。4月、風によって沖縄から北海道まで到達。



1. 福島原発事故の真相

- ・直接原因は、津波ではなく地震による配管破損。耐震性に問題があった。

どの爆発も食い止められなかった。

2011/3/11 14:46 三陸沖で大地震発生

3/12 15:36 1号機で水素爆発 白煙 原子炉建屋が吹き飛ばす 放射能の大量放出が始まる

3/14 11:01 3号機が水素爆発 黒煙 原子炉建屋が吹き飛ばす

黒い塊(燃料棒)が降ってきた。使用済燃料棒が核分裂を起こした。 臨界爆発

3/15 朝 2号機の格納容器内で爆発

7:00頃 4号機(定期点検中で停止中)の使用済み燃料プールで爆発 臨界爆発

原子炉建屋が吹き飛ばす

2. 浜岡原発と東海・東南海・南海3連動地震

- ・浜岡原発は4枚のプレート(フィリピン、太平洋、北米、ユーラシア)が重なりあった真上にある。直撃を受ける。

- ・昭和東海東南海地震(1944年 M7.9)では、東海震源域のエネルギーが解放されていない。2011年は、安政東海大地震(1854年 M8.4)から157年。もう限界。

- ・2011/5/7 浜岡原発5基全停止。福島第一原発4号機のように停止中でも爆発は起こる。危険は去らない。

- ・中電の津波対策...12mの防波堤というが!?

1771年八重山地震で石垣島、40mの津波

- ・浜岡原発から直線距離で70キロの豊川・豊橋、120キロの名古屋は一瞬に死の町になる。

- ・石油・石炭・天然ガスは最低数百年以上、実際には1000年以上も枯渇しないほど大量にある。

- ・火力発電のCO₂排出方式、日本の技術は世界一、(中電知多発電所、中電上越発電所)

- ・原子力に頼らなくてもいい!!

1995 阪神淡路大震災以降、地震の活動期に入った。

2000 ガルの揺れは今まで普通に起こっている。

2000/10/6 鳥取県西部地震 1482 ガル

2003/7/26 宮城県北部地震 2037.1 ガル

2004/10/23 新潟県中越地震 2515.4 ガル

2007/7/16 新潟県中越沖地震 2058 ガル

柏崎刈羽原発3号機タービン建屋爆発

2009/8/11 駿河沖地震 東名高速道路路肩が大崩落

浜岡原発運転中の4・5号機が緊急自動停止

488 ガル(5号機) 426 ガル(4号機)

東日本大震災原発事故は500 ガル未満でもこれほど深刻!

現存する54の原子力発電所の立地場所はどこも危険!

(ガル=加速度の単位 人間や建物にかかる瞬間的な力)

民の声を恐れよ 脱原発デモと国会

中日新聞 社説

2011/10/12

原発の是非をめくり大規模な集会やデモ、住民投票実施に向けた動きが広がっている。国会にこう訴えかけているのではないか。「民(たみ)の声を恐れよ」と。

9月19日、東京・国立競技場に隣接する明治公園で開かれた「さようなら原発5万人集会」呼び掛け人の一人、作家の大江健三郎さんはこう訴えた。「私らは抵抗する意志を持っていることを、想像力を持たない政党幹部とか経団連の実力者たちに思い知らせる必要がある。そのため何ができるか。私らには民主主義の集会、市民のデモしかない。しっかりやりましょう」

p3 下段へ



3. 放射能汚染の恐怖

原発事故の一番の被害者は幼い子どもたち 福島でもチェルノブイリでも

- ・体内被曝...呼吸と食べ物・飲料水を通して、放射性物質を体内に取り込む。食物連鎖がこわい!! (右図)

体の外から放射線を測定しても、体内に取り込んだ放射能は測定できない。

牛の汚染は、稲ワラだけが原因ではない。放射能を水から摂取し、鼻からも吸い込んでいる。

- ・癌の発症...福島第一原発から 100km 圏内 10 年間に 10 万人以上、100~200km 圏内 10 年間で 12 万人以上。
(3/30 ヨーロッパ放射線リスク委員会 ECPR の発表したもの。これにより、ドイツ・スイス・イタリアは原発廃絶に向かった。)

...1986 年チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌発症は、5 年後から 14 歳以下の子どもで増加し一旦下降するが、10 年後 15~18 歳以上の成人で再び増加。

- ・日本では超危険な食品が流通

...セシウム 137 を含む飲食は、日本では、1kg あたり暫定基準値 500 ベクレル。ドイツでは乳児・子ども・青少年 1kg あたり 4 ベクレル、大人 8 ベクレル。

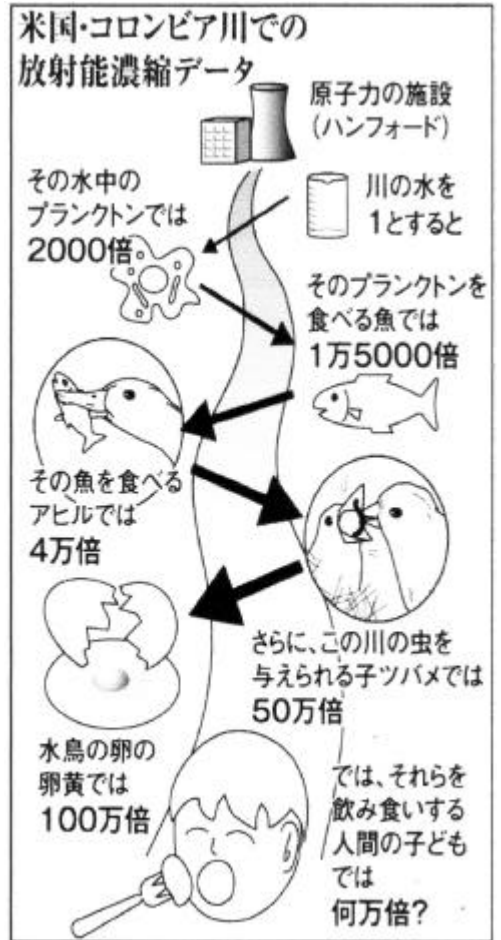
...EU 含む 43 ヶ国では、静岡~福島までの太平洋岸の 12 都県からの農産物輸入禁止 (9 月現在)

- ・検査操作...試料をすりかえる・危険な放射性物資 (プルチウム・ストロンチウム等) を測定から除外・測定時間を短縮 (通常 8 万秒を 2 万秒に) など

- ・産地偽装商品...汚染地名を隠し、広範囲に広がっている。
- ・首都圏...避難しなければならない地域がある。
- ・飯館村の土壤汚染...チェルノブイリ原発事故の進入禁止区域レベルの 2 倍以上
- ・放射能の半減期...放射能が消える期間ではない。永遠にゼロ

にならない。半減を繰り返す間に体を傷つける。半減期 8 日でもヨウ素 131 は、女性の胎盤から胎児の甲状腺に集められる。産んだ後は母乳に集められる。

- ・放射線に対する感受性が高い乳幼児・子ども・若い人・妊婦は、被曝量を小さくする努力を!
- ・すべての食品に「ベクレル表示」を義務づける運動を!



シーベルトは、人体への影響を表す単位
ベクレルは放射性物質の量を表す単位
ベクレルをシーベルトに換算できる

「お母さん革命」だ

この集会には主催者発表で約 6 万人、警視庁の見積もりでも 3 万人弱が集まったという。東京電力福島第一原子力発電所の事故を機に、脱原発を目指す運動は燎原 (りょうげん) の火のごとく、全国各地に広がっている。子どもたちが学校で受ける放射線量の限度をめぐり、文部科学省が当初設定した年間 20 ミリシーベルトから 1 ミリシーベルト以下に引き下げさせたのは「20 ミリシーベルトの設定は子どもには高すぎる」と行政に働き掛けた保護者たちだった。満身の怒りで国会、政府の無策を訴えた東京大アイソトープ総合センター長の児玉龍彦教授は、原発事故後、子どもの命と健康を守るために立ち上がった市民の動きを「お母さん革命」と表現する。原発反対、推進のどちらにも与 (くみ) せず、極めて重要な案件は国民一人一人が責任を持って決めるべきだとの立場から、東京や大阪、静岡では原発の是非を問う住民投票実施に向けた動きも始まった。自分たちの命や生活にかかわることは自分たちで選択したい。この思いは、国会開設を求めた明治期の自由民権運動にも通底する政治的衝動ではないだろうか。.....
..... 政策決定を政治家や官僚任せにしないためにも、私たちには「民の声」を発し続ける義務があり、負託を受けた議員は最大限くみ取る。そうした当たり前の作業が代議制を鍛え直す第一歩になる。



災害時独特の
心理状態

人口 5600 人のうち 700 人の犠牲者を出した宮城県名取市閉上（ゆりあげ）地区を取材。地震発生から津波到着までの 1 時間。その時顕著に現れた心理状態は「ストレスを回避して、自分を冷静に保とうとする」ことでした。

- 1. 正常性バイアス ... 危険でないと思い込もうとする心情。
- 2. 愛他行動 ... 今助けないとこの人は死んじゃうと思ってする行動。
- 3. 同調バイアス ... 判断と行動を周りの人に合わせようとする心情。

豊川市防災計画にはこのことは考慮されていない。どう盛り込んでいくか議論の余地あり。

豊川市防災講演会 『想定を超える災害にどう備えるか』片田敏孝群馬大学教授 2011/12/18 御津中 参加 4 名

8 年前から釜石市の「津波防災教育」に携わる。

- 1. 子供への教育（大人は行政や防災インフラに頼ることで油断している。子供から親、地域を巻き込み、意識改革を行った。大人になった子供が防災文化として次世代につなげるため。）
 - 子供「お母さん、僕は地震があったら逃げるね。だから、僕を学校に迎えに来ないで、逃げてね。」
 - 母「分かった。ちゃんと逃げてね。ママも逃げるね。」（家族との信頼関係を築く）
 - 「子供津波避難の家」（災害があった時子供が駆け込んでくる家）を地域の大人にお願いする。
 - 子供が駆け込んだ家の大人は「その子供の命を守らなければ！」と思い、さらに「自らの命も守ろう！」と考える。（地域の人との信頼関係を築く）
 - 中学生が避難時に戸口に掲げる「安否札」を各戸に配った。（中学生は守られる側でなく守る側だ！）

2. 子供に教育した「避難 3 原則」

- 1) 想定にとらわれずに避難せよ！・・・ハザードマップを信用するな！・・・危険を自分で気づけ！
- 2) 最善を尽くせ！・・・「ここまで逃げたら大丈夫だろう」ではなく、その時できる最善の対応行動をとる！
- 3) 率先避難者たれ！・・・自分の命は自分で守れ！【三陸地方の言い伝え“津波てんでんこ”】
 - いざという時、まず自分が率先して逃げる。その姿を見て他の人も避難する。結果的に多くの人を救うことになる。

3/11 釜石市では、高台に避難する釜石東中学校の生徒を見て、鶴住居小学校 3 階に避難していた小学生は中学生の後を追って、その姿を見て保育園や近所の大人も走り、指定避難所へ。さらにここが危険と判断しより上の高台に避難。その数十秒後にすぐ近くまで津波到達。危機一髪。釜石小学校の児童全員は学校外だったが、全員無事。市内小中学校にいた約 3000 人の生徒のうち 5 名を除き高台に避難して無事。

釜石の
奇跡

- 3. これからの防災・【まず、人を死なせない防災】生き残った人のための避難所や復旧復興などは次の段階。
 - 1) 平時の積み重ね（自然の恵みに近づくことは自然の災いに近づくこと。日常は自然を満喫してほしい。津波が来るその日その時に適切な行動がとれる用意ができていないこと。それが、この土地に住む人が持つべき、自然への“お作法”）
 - 2) 地域の人材発掘（誰ならできるかという視点をもつこと）
 - 3) 段階的な避難所計画
- 4. 質問：何メートルの津波で家が崩れるか
 - 答え：激しい流れに瓦礫の勢いが加わる。50センチの津波でも家の土台は流される。家の場所の標高（海拔）を知って対処してほしい。



【野田首相 施政方針演説（第 180 回国会 2012/1/24）より】（中日新聞 1/25）

日本に広がる幾多のフロンティアは、私たちの挑戦を待っています。「女性」は、これからの日本の潜在力の最たるものです。これは、減少する労働力人口を補うという発想にとどまるものではありません。社会のあらゆる場面に女性が参加し、その能力を発揮していただくことは、社会全体の多様性を高め、元氣な日本を取り戻す重要な鍵です。日本再生の担い手たる女性が、社会の中でさらに輝いてほしいのです。